

プロジェクト化した場合の活動・啓発イメージ

仮) にプロジェクト名を

みんなで声かけプロジェクト

～声かけの輪で情報弱者をみんなで守るプロジェクト～

5つの声かけアクション

- ①オレオレ詐欺を声かけの輪で守ろう！
- ②高齢者を声かけの輪で守ろう！
- ③子供達を声かけの輪で守ろう！
- ④困った人を声かけの輪で守ろう！
- ⑤地域のコミュニティーを声かけの輪で守ろう！

プロジェクトのコンセプトに賛同した、**企業**・**行政**・**民間団体**が各自の日々の活動の中で、また各自連携をして、声かけ運動を始める

1・各情報発信者の活動・啓発例

【企業の活動例】(事業者)

- (1) 銀行が、このプロジェクトのロゴマークが入ったポスターを各店舗に掲載して、銀行員が声を掛けやすくし、オレオレ詐欺の撲滅運動に参加する
- (2) 運送会社が、配達先が高齢者や情報弱者だった時に、一言「お婆ちゃんオレオレ詐欺に気をつけてネ！」と声を掛けてプロジェクトのロゴマークと運送会社のロゴマークが入った紙媒体等を高齢者に渡す。
- (3) ドリンクメーカーが、熱中症予防などの高齢者セミナーや地域のイベントまた、地域のNPOの座談会等で本プロジェクトの賛同会員である行政や民間団体とコラボレーションしてプロジェクトロゴマークが入った紙媒体等を配布する。
- (4) 各企業のイベントや店舗で企業名×プロジェクト名が入ったDVDや紙媒体等を配布して頂く事により、企業の販促活動を利用したプロジェクトの啓発

【行政の活動例】（国・地方公共団体・国民生活センター等）

- （１） 市区町村の役所が、このプロジェクトのロゴマークが入ったポスターやのぼりを役所の玄関や庁舎内に掲載して、共通の言葉で声かけを実施する。
- （２） 地域の民生委員にプロジェクトのロゴが入った紙媒体やツールを渡して、声かけ運動に参加して頂き、またその媒体に対してWEBやFAX・電話等で意見を頂いて資料も地域に合った形に変更をしていく。（ロゴ等は一緒）
- （３） 地域のお祭り等にもプロジェクトののぼりやブースを出して声かけを行う。
- （４） プロジェクトに参加している地元の企業とコラボレーションをして、地方行政と地元企業の名前が入ったプロジェクト啓発ツールを企業に配布してもらう。
- （５） 金融庁や総務省（警察・消防）・国交省（道の駅）（鉄道）・農水省（JA）・文科省（学校）などと連携して共通のロゴマークで啓発。

【民間団体の活動例】（NPO・NGO・地域の集まり・学生団体等）

- （１） 地域で活動しているNPOさんに、プロジェクトのロゴが入った紙媒体やツールを使って声かけ活動をして頂く。
- （２） 大学生のNPO団体などと企業・行政がコラボレーションをして、夏休みやGW等で帰省をした際にプロジェクトのロゴや企業・行政のロゴ入った紙媒体やDVDをお土産にして頂き啓発する。
- （３） プロジェクトが企業や行政とコラボレーションしたハガキ等を郵便局と連携をして作成して、民間団体の日々の活動で配布して頂く。

【プロジェクト主体の活動例】

- （１） 例えば、渋谷ハチ公前広場を使って、本プロジェクトのイベントを賛同会員と実施。イベント内容は、「みんなで秘密の合い言葉ハガキを使って声かけして詐欺をなくそう！」「大きな声かけ合戦」などのイベントを行い、ユニークな形での啓発をプロジェクトが主体となって行いイベントでの啓発を実施する。

このように、それぞれがそれぞれの日々の活動の中で共通の言葉やロゴマーク・ツールを利用して啓発（声かけ活動）を行う為、国民もとても分かりやすく活動する側も活

動が行いやすくなり、無関心層への啓発も可能になり活動の幅が広がります。

2・プロジェクトのWEBサイトについて

プロジェクトのWEBサイトは下記に内容が必要と思われます。

- ① プロジェクトコンセプト（ロゴやキャラクター）の説明・紹介
- ② 関係省庁の関係ページへのリンクバナー掲載
（今迄の関係WEBサイトの有効活用）
- ③ 賛同して頂く、企業・行政・民間団体の会員登録の仕組み
（賛同している会員の明確化）
- ④ 賛同した会員が利用出来るツールのダウンロード仕組み
（国民も利用できるツールも必要・見守りガイドブック・見守り新鮮情報等）
- ⑤ 賛同会員の活動を紹介する仕組み
（賛同会員が勝手に紹介できる・事務局のチェックは要）
- ⑥ プロジェクトが良いと思った活動やイベントの紹介
- ⑦ 賛同会員企業や行政・民間団体との取組み紹介
- ⑧ 国民（消費者）が実体験や解決策を掲載できる仕組み
- ⑨ 消費者が困った時にどこに電話すれば良いのかまた、どうすればよいのかが分かりやすく掲載されている事

上記の①～⑧はサイトに必要な事項と思われます。

プロジェクトの専用サイトがあれば、情報の共有（知恵の共有）が行い易くプロジェクトが自走化しやすくなります。

また、何かあった時や何か知りたい時に、プロジェクトサイトを見れば、様々な問題の解決を図る事や必要な情報の取得が出来るため国民（消費者）の皆さんにも分かりやすくなり、⑧がある事により国民が参加でき、また企業や行政・民間団体もそこなら勉強をしてより良い活動を行ってくれやすくなる、まさに情報が一方通行な運動ではなく循環型のプロジェクトになります。

以上がプロジェクトした場合の活動・啓発イメージになります。